

平成31(令和元)年度自己評価結果公表シート

R2年3月

幼保連携型認定こども園
金城幼稚園・保育園

1. 評価項目の達成および取組状況

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園

H30年度 学校評価の取り組み報告～ダイジェスト版～

①今年度の取り組み状況

H30.夏1回目実施

☆保育の計画性☆ ☆保育の在り方、幼児への対応☆

夏に行った自己点検・自己評価の集計・分析を行った結果、保育者の中で「保育＝クラス活動」という認識が強い傾向があることがわかりました。そのため「園全体（登園から降園まで）が保育である」ということを職員間で確認するためにグループディスカッションを行いました。



☆3歳以上児☆

グループディスカッションを行うことにより、「朝の受け入れ～降園するまで」が保育であることを職員全体で確認することができました。その中で8:30～9:30の玄関での受け入れ～自由あそびに焦点をあてて子どもの育ちについて考え、受け入れ方法を改善し、遊びのリーダー保育者など保育者の役割を明確化しました。そのことにより子どもたちが自由あそび遊びに集中できるようになりました。



コーナー遊びが充実するようになりました！

☆3歳未満児☆

園生活全体が保育であるということを再確認してから、発達表を用いて遊びや活動について考えました。現在発達に合った遊びや活動を提供できている部分が多いことがわかり、職員の自信につながりました。また、これから取り組みたいことが明確化され、具体的に準備をし、遊びや活動に取り入れられました。



ひねる動きができるおもちゃをとりいれました！

赤・青・黄の3原色を覚えられるよう3色をとりいれたおもちゃをつくりました！

H31.冬2回目実施

☆保育の計画性☆ ☆保育の在り方、幼児への対応☆

夏の自己点検・自己評価を受け2回目は再び『保育の計画性』『保育の在り方、幼児への対応』の項目について自己点検・自己評価を行いました。

その中で「他の保育者が困っている状況に対し、保育のフォローを自ら行うことができる」について課題と上げ、意見を記入している職員が多かったです。そのため、1月のグループディスカッションでは1日の中で「自分が困っていること」「他の保育者がこまっているのではないかと感じることを話し合いました。その中で①過去に解決方法が決まっていたのに機能していない事②これから改善策をたてなければいけないことに分け話し合いました。



<来年度に向けて>

【3歳以上児☆1階倉庫の整理整頓】

使いやすいスペースを作る。3月に配置を決めたことを実行していく

【3歳未満児☆クラス会議・月案の形式の変更】

月案は担任だけでなく、クラス会議の時にクラス職員全員で意見を出し合い、作っていく。クラス会議で手遊び、わらべうた等の情報交換を行い、遊び等のレパートリーを増やしていく

学校関係者評価委員会の方からのご意見

- ・「マンネリ化」とはどの職業でも話題となる。新しい事を取り入れるのも良いが今まで積み重ねてきたことも大切にしながらより良いものにしてほしい。当園はリカバリー対策ができているので今後も継続していき、さらに強い施設になってほしい。
- ・保育者同士で検討・反省は大切なことであるが人と比較することで不愉快な思いをすることもあると思う。小さな問題はなくなるものもある。
- ・園の教育目標に向かい、子どもたちをどのように導いていくかを常に考え、工夫する先生方の努力が素晴らしい。
- ・学校評価の進め方が小学校としても参考になった。具体的に分析し、改善策も細かな部分まで決めているのが良いと思った。
- ・保育中の子どもの姿に園の方針が表れていた。
- ・(年長クラスの発表を観て)担任の感性豊かな指導に感心した。子どもたちにも保育教諭の熱意が伝わっていると思う。
- ・夏の自己点検自己評価の取り組みも良かったが、今回の「自分が困っていること」「他者が困っているのではないか？」という視点で考えたことも素晴らしい。互いの事を思いやりながら意見を出し合うこと良い。改善策はちょっとした工夫ではあるが具体的に考えられていてとても良い。
- ・長年経験してきた人と新人をつなぐ中間層がいるので伝えにくい事も伝ええる環境になっている。新人は何が分からないか、分からない事を誰に聞けばいいかも分からない。それを再認識する場があることが素晴らしい。
- ・保育の計画性の分析シートで、具体例に「子どもの成長は振り返っているが、教育課程の評価まではできていない」と記載されているが、子どもの成長についてしっかりと振り返っていることこそが教育課程の見直しであると思う。発達表を用いて話し合うことも見直しだと思う。評価についても自信を持って良い。